

【地域の課題解決事業】

一般社団法人 enGrab

～中高生のための居場所「アマたまカフェ」～

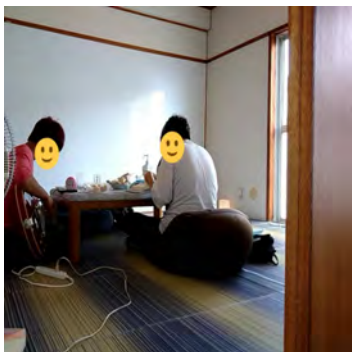
ユースワーカー M様

尼崎市住環境支援事業を利用し、尼崎市塚口エリアで、公営住宅の1戸（3DK）を借りて、家にも学校にも居づらいなどの悩みを抱えた中高生を対象とした居場所を開いています。

週に4回、16時から20時30分まで「かくれ家 YokA（よか）」として開放しています。常連3名、他5～6名の中高生が利用しています。20時閉室とうたっていますが、居心地がいいのか、なかなか帰宅せず、いつも21時近くまでいます。近所の子がほとんどですが、中には自転車で30分かけて来てくれる子もいます。もう1つの居場所「アマたまカフェ」で知り合った子たちがほとんどで、スタッフが声をかけ、意気投合した子が参加しています。



過ごし方は、本を読んだり、ゲームをしたり、常駐のスタッフと話をするなど自由にくつろげる場となっており、ルールはありません。スタッフは10代～20代の大学生、社会人ボランティアで参加者とは、友達のような対等な関係です。スタッフが携わった仕事の経験から、なるべく同じ目線で接するようにしています。



同じ悩み等を持つ参加者同士、くつろげる場となっています

(本を読んだり、楽器を弾いたり、料理をしたりと自由に仲間と一緒に過ごしています)

常連の中学生 K 君は不登校の経験を活かし、将来は自分で居場所を開設するのが夢です。そのため、ここで主体的に運営に携わり、様々な人と関わり人脈を作っています。他の参加者も自分の意見をどんどん出してくれるので、YokA に活気が出てきています。スタッフは参加者のやりたいことをサポートしています。

<やりたいことがどんどん膨らみ、地域と連携したイベントを開催>

夏のイベントを主催し、地域の親子に声をかけ、近くの公園で祭りを開催しました。YokA の参加者はイベントの企画段階から加わり、祭りに必要な材料の調達やゲームの製作、飲食ブースの仕込みなどを行いました。また準備の段階から地域の多くの子も達が手伝いに来てくれ、ゲームや飲食のブースを作りました。祭り当日は、地域の小さい子どもから大人までと一緒に交流しながら、楽しみました。夜には花火をし、大いに盛り上がりました。その他に団地内では、住民の方と一緒に草抜きをするなど積極的にコミュニケーションを図るよう、心がけています。



浴衣を着て、お祭りを盛り上げ、素敵な思い出となりました

中高生の居場所として学習支援を行っているところが多いですが、勉強が苦手についていけず、救われない子もいます。10代の様々な悩みを持つ子たちを少しでも救いたい、助けたいという思いを常に持ち、今後も活動を継続していきたいと考えています。



【地域の課題解決事業】

【新たな挑戦を通じて共生社会の実現を目指す事業】

一般社団法人より処いっぷく いっぷくボランティアグループ ～みんなが力を出し合える♡わくわく♡プロジェクト～

代表理事 様

神戸市北区で毎週火曜日、地域で暮らしにくいと感じている方などに農業体験と喫茶の運営に参加していただくことで、お互いを支え合う活動を行っています。対象となるのは、福祉の公的サービスを拒否し、家族やケアマネージャーが困っていた方や認知症の方などです。

引きこもりの方などを支援する団体が「しあわせの村」で借りている畑で、野菜の栽培・収穫など農業体験をします。無農薬で育てた大根やキャベツ、さつまいもなどは、素材の甘味などが増し、素材そのものの味がします。採れた野菜を畑仕事の後の昼食で使用し、おいしいと好評です。



畑で採れた野菜を使用した、中華丼と
かき玉汁をおいしくいただきました



お天気も良く、気持ちの良い日で皆さん、笑顔で楽しそうに畑仕事をされていました

この農業体験と喫茶の運営に参加されるのは、80代の2～3名です。栽培中の野菜の周りの雑草を抜いたり、収穫などの作業を行います。畑作業に経験のある年代のため、抵抗感がなく、ほとんどの方がこの日を楽しみにしてくれています。普段の生活では、おぼつかない足取りなのに、畑の中では普通に歩ける方もおられます。畑仕事をするにより、認知症だった2名の方が元気になって1人で買い物に行けるようになるなど症状が改善し、私たちの支援を卒業されました。

<喫茶の運営に携わることにより、新たな役割や生きがい生まれる>

畑仕事を終え、午後からは、喫茶の運営に参加していただきます。スタッフがサポートしながら、机の配置、配給、レジ、注文など役割を分担します。机には番号を振り、注文を間違わないようにするなど覚えやすいよう工夫しています。喫茶のお客は、近くに住む70代～90代の方で、常連が5名ほどと地域の方が数人来られます。世間話などの会話を楽しんでおられ、憩いの場となっています。



注文ミス防止のため、机には番号が振られています

コープ西鈴蘭台店と連携しており、地域他団体が集まるミーティングに定期的に参加し、意見交換など交流をしています。また、事務所の並びにある子育て支援を行っているNPO法人与自然と密に連絡を取り、支援が必要な方がいれば情報共有し、適所につなぎ対応しています。今後も地域の人や団体などと地道に関係づくりを行い、継続して活動を広めていきたいと考えています。

【地域の課題解決事業】

特定非営利活動法人兵庫空き家相談センター

～坊勢島 空き家利活用促進で展開するまちづくりと活性化～

理事長 様

<専門家によるワンストップサービスで空き家解決問題に対応>

兵庫空き家センターでは、セミナーで相続や遺品整理などのお話をし、その後個人相談を行うといった、ワンストップサービスを行っています。行政に空き家相談に行く方は多いのですが、発生した問題により対応部署が違うことや、部署間の連携が取れていない場合が多く、解決に時間がかかります。しかし、私たち空き家相談センターは、弁護士や行政書士などの資格を持つ80名のスタッフがいるため、ワンストップで適切に対応しています。行政と協定を結び、兵庫県の各エリアで1日1.5件、年間400件ほどの相談を受けています。相談内容は、1人暮らしで施設に入居される方や遠隔地の土地所有者などの空き家の管理、売買、相続などです。

<地域住民と連携して開催した坊勢島ツアーに空き家見学を組み込む>

姫路市から相談を受けたことをきっかけに、家島諸島の坊勢島で地元のNPO、住民と一緒に空き家ツアーを企画し、今回の助成金を活用して開催しました。坊勢島は姫路港から船で約40分、1時間に1本定期船が運航しています。ツアーは、20名ほどが参加し、実際に空き家の中を見たり、島内を歩いたり、集会所では住民と交流しました。昼食は島の良さを知ってもらうため、地元の魚料理を食べていただきました。



島内を参加者全員で探索しました



家の中に入り、空き家の状態などを確認しました



地元の方から島の魅力を聞く交流タイムを設けました

参加者は、子連れで2拠点での生活を考えている方、頻繁に釣りにくる方、会社で保有し、好きな時に使えるシェアハウスを考えている方などです。ほとんどが、姫路市内や赤穂など播磨地域に住んでいる方で、「遠く離れたところに別荘を買うより近くてよい」や「姫路から意外と近い」などの感想をいただきました。また、このツアーで空き家を購入希望されている方がおり、購入に向けて今後、支援していく予定です。

今回のツアーを開催するにあたり、確認したところ、島内で使ってほしいという要望のある空き家は、20～30件でした。実際にはこれよりもたくさんの空き家があります。今後、ツアーの効果が出れば、空き家をまだ手放していない方も、話を聞いて今後、協力してくれるのではないかと期待しています。

私たち空き家相談センターは、空き家の利活用、地域のまちづくりを担っており今後は、兵庫県だけではなく関西など、少しずつ近隣の地域に活動を広げていきたいと考えています。